

岡山・加茂川町

自治体初の国際貢献組織

災害、飢餓救おう

自治体レベルの国際貢献を——と、岡山県加茂川町が、国際緊急援助組織の設置を十一日までに決めた。町職員をはじめ土木技術の専門家をアジア・アフリカ諸国などに派遣、医療救援を続けているアジア医師連絡協議会（本部・岡山市、AMDA）などと連携して飢餓や災害に苦しむ人を支援する。国際貢献の組織を自治体が独自に作るのは全国で初めて。

設置規則案によると、災害などで緊急支援を必要とする国に、知的資源を提供。専門家を派遣し、上水道の敷設や土木作業の技術指導、NGO（民間活動団体）

アジア医師連と連携

との交流などを行う。組織は同町の地域活性推進課に設置、職員のほか町民からもボランティアを募る。基本的には一般会計で運営費をまかない、寄付金などでも補てんし、新年度に予算化する。

同町は昨年七月、内戦下のソマリアに職員二人を派遣。半月にわたってAMDの医師らとともに診療助手を務め、医療物資の運搬を助けた。

片山舜平町長は「県内の他の自治体にも協力を呼び

かけ、将来は国際貢献の協議会を作りたい。海外との交流は地域おこしにも結びつく」としている。

また、AMDAの首波茂代表は「医師には医療以外の専門知識がなく、思うような救援活動ができないこ

ともあった。自治体の人材やノウハウを提供していただければ心強い」と喜んでいる。

時代先取り、画期的

木本博之・外務省経済協力局政策課NGO協力センター所長の話「ヨーロッパではNGOと自治体の交流は当たり前に行われているが、日本ではまだ遅れている。画期的な試みで、時代を先取りしたものだ。わが国全体の援助活動の質的向上が期待され、国民への啓発にもなる」